

日本学術振興会「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」について  
日本学術振興会人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進センター

廣松 毅、伊藤伸介、前田幸男

### 事業の目的

日本学術振興会(以下、JSPS)が2018年度から取り組んでいる「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」(以下「本事業」)は、人文学・社会科学に属するデータを分野や国を越えて共有・利活用する総合的なシステム(データインフラストラクチャー)を構築することにより、研究者がデータを共有しあうとともに、国内外の当該分野の共同研究が促進され、人文学・社会科学分野の研究が進展することを目的としている。

### 背景と日本の現状

現在、人文学・社会科学の方法に大きな変革が生じつつある。これまで個々の研究者が資料を収集、分析・解釈を行う手法が主流であったが、ICTの発達によって研究者が共同でデータを収集・分析するアプローチが国際的に急速に発展し、国際的な学術雑誌への投稿などでは、データを用いた実証分析の再現可能性が求められるようになった。合わせて世界的なオープンサイエンスの潮流を受けて、多くの国においてナショナルセンターなど国家レベルでデータの集積と管理、利活用を推進するデータアーカイブ機関が設立され、これらの機関が国境を越えた相互連携、データの共同利用を進めている。

日本でも一部の分野で大学等の研究者グループを核に類似の取組が行われている。しかし、個人研究の度合いが強い人文学では、多くの場合、データの管理が個々の研究者に委ねられており、研究者の異動や退職、研究室の改廃などによって散逸することが多い。また、社会科学の研究に不可欠な情報基盤である公的統計では、分類方法の変更や市町村合併などによって過去の結果と時系列的に接続せず、その解明のための膨大な作業が個々の研究者の取組に依存してい

る。ただし、例えば人文学における「日本語の歴史的典籍のデータベースの構築」は学術研究の大型プロジェクトとして大きな成果を上げている。また、大学等の研究機関を核に取組が行われ、共同利用・共同研究拠点の認定を受けている分野もある。

### 本事業の取組み

それぞれの専門分野の拠点の基盤の強化とデータ共有化を目指しつつ、拠点間の連携協働によってデータインフラストラクチャー構築の基盤整備に取り組む。

1. 各拠点の取組: 大学等の研究機関が、専門分野の拠点として次の取組を行う。

- ア. データアーカイブ機能の強化(共有化)
- イ. 海外発信・連携機能の強化(国際化)
- ウ. データ間の連携を可能にする取組(連結化)
- エ. 新たな社会基盤的調査の支援(高度化)

2. 中核の取組: JSPSは拠点との連携協働により、以下の取組を行う。

- ・データ共有・利用等の共通ガイドライン策定
- ・オンライン集計・分析システムの開発研究
- ・分野横断的、総合的データカタログの整備
- ・公開シンポジウム開催等による啓発

### 将来の展望

人文学・社会科学データインフラストラクチャーは、国、学術振興機関、大学等の研究機関、研究者が主体的に取り組むことによるのみ実現できる。実際の基盤整備には財源措置を伴い、国や学術振興機関による予算措置や枠組み整備を必要とするが、関係主体の実現に向けた連携・協働が必須である。同時に、基盤構築に関しては、各拠点の参加意識、主体性を高める効果がある反面、意思決定等の複雑化による弊害がないか、一定の時期に検証する必要もあろう。